項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	食道癌に対する術前 DCF 療法における再入院リスク
	研究対象者	食道癌と診断された患者さんのうち、2024 年 4 月から 2025 年 9 月の間に神奈川県立がんセンターで術前 DCF 化学療法を受けられた方。
	研究目的	食道癌の術前 DCF(ドセタキセル、シスプラチン、フルオロウラシル)療法は，癌に対する効果が高い一方で、重篤な骨髄抑制をきたすことが報告されています。特に、退院後に発生する重症好中球減少は再入院につながる重要な課題です。本研究は、退院後早期の重症好中球減少と再入院を予測し、退院判断の個別化に役立つ簡便なスコアリング法の構築を目的としています。
	研究方法	当センターに残されているカルテから得られる情報のみを研究対象としています。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所、ID などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。データは USB へ保存し、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西暦 2026 年 2 月 2 日 ～ 西暦 2027 年 3 月 31 日
	利用又は提供を開始する時期	[✓]総長が研究実施を許可した日 [ ] 西暦　年　月　日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[ ]試料:	[ ]血漿、[ ]血清、[ ]全血、[ ]末梢血から抽出した DNA、 [ ]病理検体(具体的に記載:　)、 [ ]尿、[ ]糞便、[ ]唾液、[ ]胸水、[ ]腹水、[ ]脳脊髄液、 [ ]毛髪、[ ]その他(具体的に記載:　)
	[✓]情報:	[✓]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[✓]年齢、[ ] 生年月日、[✓]性別、[✓]既往歴、[✓]併存疾患、[✓]外来日・入院日・退院日、[✓]臨床検査値、[✓]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[✓]臨床所見・経過（予後追跡データを含む)、[ ] ゲノムデータ、[ ]看護記録、[ ]その他(具体的に記載:　)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	胃食道外科　公盛啓介
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター・胃食道外科・公盛啓介 連絡先：045-520-2222 利用停止のお申し出は 2026 年 3 月 31 日までにお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります